



第11回インターナショナル サマージョウム(The Eleventh International Summer Symposium) 開催報告

9月11日(金)に東京工業大学において、第11回インターナショナルサマージョウムが土木学会国際委員会(委員長・古田均・関西大学教授)の主催で開催された。このシン



写真1 古田均委員長と優秀発表講演者の記念撮影



写真2 三木千壽教授による基調講演

ポジウムは土木学会の国際活動の一環として、英語での研究成果発表の機会を設けることにより、日本に滞在中の留学生・エンジニアを中心に、国際交流と相互理解を深める目的で企画されたものである。1999年から開催され、11回目となる今回は124名の参加者(外国人学生・エンジニア80名、日本人学生・エンジニア44名)を得て、7部門・68件の研究発表、基調講演、スタディー・ツアー・グラント^{奨励金}招聘者である台湾・フィリピン・ベトナム・タイからの学生による報告、ならびに懇親会が行われた。また前回から論文の質を向上させることを目的として全文査読を実施している。なお今回のシンポジウムは公益信託「土木学会学術交流基金」の助成を受けて実施された。

シンポジウム当日は、午前・午後合わせて計17の一般講演セッションおよび基調講演が行われた。基調講演は、三木千壽・東京工業大学教授による「Creativity Developing Education at Tokyo Tech」と題する講演が行われた。大学における創造性育成教育に関する話題で、参加者にとって有意義な講演であったと思われる。また、一般講演での発表においてはどのセッションでも活発な議論がなされ、参加者相互間の有意義な情報交換ができたものと考えられる。

最後に参加者が一堂に会し懇親会が催され、そのなかで優秀発表講演者(受賞者は左記のとおり)に賞状と記念品が授与された。参加者間の活発な交流によって、シンポジウムの主目的である国際交流と相互理解はさらに促進された。

●優秀発表講演者17名(敬称略)

Nishigandha Gajanan Kulkarni(名古屋大学) / M. Kashi Razzaq(埼玉大学) / Priza Kayestha(東京工業大学) / Ke Jin(ICHARM, 土木研究所) / M.B. Samarakoon(埼玉大学) / Cokorda Bagus(東京大学) / Masline Makasi(北海道大学) / Jina Lee(東京大学) / Adriana Lucia Beltran-Galvis(東京大学) / Pran Nath Dadrich(東京工業大学) / Ang Li(山梨大学) / Wael

K.M. Alhajyaseen(名古屋大学) / Myo Zarni Win(東京工業大学) / Kioa Kim Tran(名古屋大学) / Saphouong Khamhou(東京工業大学) / Reni Desmarti(岐阜大学) / S.K. Weragoda(埼玉大学)

(国際委員会 第11回サマージョウム組織委員会委員長 二羽淳一郎(東京工業大学))

平成21年度スタディー・ ツアー・グラント 報告

土木学会では学術交流基金を活用し、毎年海外協定学会の推薦を受けた土木技術者を日本に招聘している(スタディー・ツアー・グラント、STG)。本年度は、大學生を対象として、土木工学を学ぶ大學生4名が選出された。来日したのは、台湾のMr. Heng-Hsin Chang、フィリピンのMs. Jeramee Villadiego Dimapilis、ベトナムのMr. Le Hoang Tuan、タイのMr. Pornthep Tangariyakulの4名で、各地を精力的に視察した。

日本滞在は9月6日から12日までの1週間、土木研究所、東京工業大学、早稲田大学などが国を代表する研究・教育機関、羽田空港拡張工事現場などの建設現場、鹿島、大林組などの民間企業など



写真1 人と防災未来センターにて

を訪問し、積極的に情報の収集を行った。最後に、土木学会学術交流基金が支援するインターナショナルサマージョウム(東京工業大学にて実施)にて、日本での活動の結果得られた知見、所感を発表してSTGを終えた。

短い滞在期間であったが、わが国の土木事業のスケールの大きさや土木技術の高さ、土木国際教育の整備された環境を知り、強い印象を与えたようである。将来の各人の活動の範囲を広げる契機になることを期待すると同時に、今後、各国の協定学協会と土木学会とのさらなる連携の強化につながることを願いたい。

(学術交流基金管理委員会幹事長 池谷毅)